

2013年7月 Rev2.3

1. 誌上発表(原著論文)

(生活衛生化学部)

- 小林憲弘, 久保田領志, 田原麻衣子, 杉本直樹, 木村謙治^{*1}, 林広宣^{*2}, 山田義隆^{*3}, 小林利男^{*4}, 舟洞健二^{*4}, 三枝慎一郎^{*5}, 古谷智仁^{*6}, 杉本智美^{*7}, 五十嵐良明^{*1} 福岡地区水道企業団, ^{*2} 大阪市水道局, ^{*3} 千葉県水道局, ^{*4} 東京都水道局, ^{*5} 広島市水道局, ^{*6} 横浜市水道局, ^{*7} 名古屋市上下水道局

固相抽出-GC/MSによる水道水中の未規制農薬の一斉分析法の妥当性評価

水道協会雑誌, **82(7)**, 2-12(2013)

- Shimizu K, Kubota R, Kobayashi N, Tahara M, Sugimoto N, Nishimura T*, Ikarashi Y.

*帝京平成大学

Cytotoxic effects of hydroxylated fullerenes in three types of liver cells.(3種の肝細胞における水酸化フルーレンの細胞毒性影響)

Materials, **6**, 2713-2722(2013)

(衛生微生物部)

- 大西貴弘, 古沢博子, 佐古 浩^{*1}, 乙竹 充^{*1}, 福田 穰^{*2}, 吉成知也, 山崎朗子, 鎌田洋一, 小西良子

^{*1} (独) 水産総合研究センター増養殖研究所, ^{*2} 大分県農林水産研究指導センター

クドア食中毒および *Kudoa septempunctata* の季節による特徴

日本食品微生物学会雑誌, **30** (2), 125-131 (2013)

- Ohnishi, T., Furusawa, H., Yoshinari, T., Yamazaki, A.,

*Horikawa, K., Kamata, Y., Konishi, Y.

*福岡県保健環境研究所

Electron microscopic study of *Kudoa septempunctata* infecting *Paralichthys olivaceus* (Olive Flounder) (ヒラメに寄生するクドアセプテンプンクタタの電子顕微鏡解析)

Jpn. J. Infect. Dis. **66**, 348-350 (2013)

- Sakuma, H., Watanabe, Y., Furusawa, H., Yoshinari, T., Akashi, H.^{*1}, Kawakami, H.^{*2}, Saito, S.^{*3}, Sugita-Konishi, Y.

^{*1} 日清製粉, ^{*2} 共立女子大学, ^{*3} 東京大学

Estimated dietary exposure to mycotoxins after taking into account the cooking of staple foods in Japan. (加工後の主食中に含まれるカビ毒についての日本における暴露評価)

Toxins. **5(5)**, 1032-1042 (2013)

- Oshikata, C.^{*1}, Tsurikisawa, N.^{*1}, Saito, A.^{*1}, Watanabe, M., Kamata, Y., Tanaka, M.^{*2}, Tsuburai, T.^{*1}, Mitomi, H.^{*1}, Takatori, K.^{*2}, Yasueda, H.^{*1}, Akiyama, K.^{*1}.

^{*1} Clinical Research Centre for Allergy and Rheumatology, National Hospital Organization, Sagamihara Hospital, ^{*2}

Centre for Fungal Consultation

Fatal pneumonia caused by *Penicillium digitatum*: a case report. (*Penicillium digitatum* によって引き起こされる致命的な肺炎：症例報告)

BMC Pulmonary Medicine, **13**,16(2013)

(代謝生化学部)

- Shiho Kurokawa ^{*1,*2}, Rika Nakamura, Mio Mejima ^{*1}, Hiroko Kozuka-Hata ^{*3}, Masaharu Kuroda ^{*4}, Natsumi Takeyama ^{*1}, Masaaki Oyama ^{*3}, Shigeru Satoh ^{*2,*5}, Hiroshi Kiyono ^{*1,*6}, Takehiro Masumura ^{*2,*5}, Reiko Teshima, Yoshikazu Yuki ^{*1,*6}

^{*1} 東京大学医科学研究所 炎症免疫学分野、^{*2} 京都府立大学、^{*3} 東京大学医科学研究所 疾患プロテオミクスラボラトリー、^{*4} 中央農業総合研究センター、^{*5} 京都府農林水産技術センター、^{*6} 東京大学医科学研究所 国際粘膜ワクチン開発研究センター

MucoRice-cholera Toxin B-subunit, a Rice-based Oral Cholera Vaccine, Down-regulates the Expression of α -Amylase/trypsin Inhibitor-like Protein Family as Major Rice Allergens. (コレラトキシン B サブユニットを発現させたコメ経口コレラワクチンでは、コメ主要アレルゲンである α アミラーゼ/トリプシンインヒビター様タンパク質ファミリーの発現が抑制される。)

Journal of Proteome Research **12**(7):3372-82, 2013

(毒性部)

- Kanno, J., Aisaki, K., Igarashi, K., Kitajima, S., Matsuda, N., Morita, K., Tsuji, M., Moriyama, N., Furukawa, Y., Otsuka, M., Tachihara, E., Nakatsu, N. ^{*1}, Kodama, Y.

^{*1} Toxicogenomics Informatics Project, National Institute of Biomedical Innovation ((独) 医薬基盤研究所トキシコゲノミクスインフォマティクスプロジェクト)

Oral administration of pentachlorophenol induces interferon signaling mRNAs in C57BL/6 male mouse liver. (ペンタクロロフェノール経口投与は、C57BL/6 マウス肝におけるインターフェロンシグナル系遺伝子の mRNA 発現を誘導する)

J Toxicol Sci. 2013;**38**(4) : 643-54.

(病理部)

- Toyoda, T., Tsukamoto, T. ^{*1}, Yamamoto, M. ^{*2}, Ban, H. ^{*3}, Saito, N. ^{*3}, Takasu, S., Shi, L. ^{*4}, Saito, A. ^{*5}, Ito, S. ^{*6}, Yamamura, Y. ^{*6}, Nishikawa, A., Ogawa, K., Tanaka, T. ^{*7}, Tatematsu, M. ^{*8}

^{*1} 藤田保健衛生大学、^{*2} 日本獣医生命科学大学、^{*3} 愛知県がんセンター研究所、^{*4} (株) 三井化学、^{*5} 三重大学、^{*6} 愛知県がんセンター中央病院、^{*7} (株) 東海細胞研究所、^{*8} 日本バイオアッセイ研究センター

Gene expression analysis of a *Helicobacter pylori*-infected and high-salt diet-treated mouse gastric tumor model: identification of CD177 as a novel prognostic factor in patients with gastric cancer (ピロリ菌感染・高食塩食複合マウス胃発癌モデルを用いた胃粘膜遺伝子発現解析)

BMC Gastroenterol, **13**: 122, 2013

(変異遺伝部)

- Bétous R^{*1}, Pillaire MJ^{*1}, Pierini L^{*1}, van der Laan S^{*1}, Recolin B^{*1}, Ohl-Séguy E^{*1}, Guo C^{*2}, Niimi N, Grúz P, Nohmi T, Friedberg E^{*2}, Cazaux C^{*1}, Maiorano D^{*1}, Hoffmann JS^{*1}.
^{*1} CNRS, France, ^{*2} The University of Texas
DNA polymerase κ -dependent DNA synthesis at stalled replication forks is important for CHK1 activation. (複製フォーク停止部でのDNAポリメラーゼ κ 依存性DNA合成はCHK1の活性化に重要である)
EMBO J., **32**(15), 2172-2185, 2013

2. 誌上発表(総説・解説等)

(企画調整主幹)

- Tanabe S
Perspectives of gene combinations in phenotype presentation (フェノタイプをあらわす遺伝子組合せに関する展望)
World J Stem Cells. 2013;**5**:61-67.

(薬品部)

- 香取典子
 日本におけるバイオアナリシス分析法バリデーションガイドラインについて
医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, **44**(7), 543-549 (2013)
- Katori N
Regulated bioanalysis in Japan: where do we come from and where are we going? (日本における規制バイオアナリシス: 現在までの経緯と今後の動向)
Bioanalysis, **5**(11), 1321-1323 (2013)

(有機化学部)

- Demizu, Y., Nagoya, S., Shirakawa, M., Kawamura, M., Yamagata, N., Sato, Y., Doi, M., Kurihara, M.
^{*}大阪薬大
Development of stapled short helical peptides capable of inhibiting vitamin D receptor (VDR)-coactivator interactions (ビタミンD受容体-コアクチペータ結合阻害ペプチドの創製)
Bioorg. Med. Chem. Lett., **23**, 4292-4296 (2013)

(薬理部)

- 小島 肇
 技術講座 安全性評価試験(21) 遺伝毒性試験—げっ歯類を用いる小核試験
COSME TECH JAPAN, **3** (7) 116-120 (2013)

(総合評価室)

- 松本真理子, 宮地繁樹^{*1}, 菅谷芳雄^{*2}, 広瀬明彦
^{*1}(一財) 化学物質評価研究機構安全性評価技術研究所, ^{*2}(独) 国立環境研究所環境リスク研究センター
OECD 化学物質共同評価プログラム: 第1回化学物質共同評価会議概要
化学生物総合管理, **9** (1), 92-99(2013)
- 松本真理子, 宮地繁樹^{*1}, 菅谷芳雄^{*2}, 長谷川隆一^{*3}, 広瀬明彦

*1(一財) 化学物質評価研究機構安全性評価技術研究所, *2(独) 国立環境研究所環境リスク研究センター, *3(独) 医薬品医療機器総合機構

OECD 化学物質共同評価プログラム：第2回化学物質共同評価会議概要

化学生物総合管理, 9 (1), 100-111(2013)

- 高橋美加, 松本真理子, 宮地繁樹^{*1}, 菅野誠一郎^{*2}, 菅谷芳雄^{*3}, 平田睦子, 中嶋徳弥, 小野 敦, 鎌田栄一, 広瀬明彦

*1 (一財) 化学物質評価研究機構安全性評価技術研究所, *2 (独) 労働安全衛生総合研究所, *3 (独) 国立環境研究所環境リスク研究センター

OECD 化学物質対策の動向(第22報)－第1回 OECD 化学物質共同評価会議(2011年パリ)

化学生物総合管理, 9 (1), 112-118(2013)

3. 単行本

(生活衛生化学部)

- 小林憲弘
伊東毒性病理学
高橋 道人, 福島 昭治編 丸善出版, 東京, 2013,
pp.159-161
「5.10 ナノマテリアル」について本書の一部を著述した。

4. 学会・講演等

(薬品部)

- 加藤くみ子
DDS キャリアの動態とトランスポーター
第29回日本 DDS 学会学術集会
京都府京都市, 3013.7.5

(生物薬品部)

- 長瀬翔太郎^{*1}, 山下真代^{*1}, 飯田愛未^{*1}, 渡利彰浩^{*1}, 近藤昌夫^{*1}, 深澤征義^{*2}, 多田稔, 石井明子, 八木清仁^{*1}:
^{*1}大阪大学, ^{*2}国立感染症研究所
上皮細胞を標的とした創薬基盤研究第1報～claudin-1 特異性抗体の創製～
第29回日本 DDS 学会学術集会 (2013.7) (京都市)
- 清水芳実^{*1}, 李相儒^{*1}, 渡利彰浩^{*1}, 近藤昌夫^{*1}, 深澤征義^{*2}, 多田稔, 石井明子, 國安弘基^{*3}, 八木清仁^{*1}:
^{*1}大阪大学, ^{*2}国立感染症研究所, ^{*3}奈良県立医大
上皮細胞を標的とした創薬基盤研究第3報～claudin-4 特異性抗体の創製～
第29回日本 DDS 学会学術集会 (2013.7) (京都市)
- Yoshitake, H.^{*1}, Endo, S.^{*2}, Hasegawa, A.^{*3}, Hashii, N., Kawasaki, N., Takamori, K.^{*2}, Fujiwara, H.^{*4}, Araki, Y.^{*2}
^{*1}日本医科大学大学院, ^{*2}順天堂大学大学院, ^{*3}兵庫医科大学, ^{*4}京都大学大学院
Structure of the Oligosaccharide Chain in the Molecular Epitope for An Anti-Sperm Auto-Monoclonal Antibody, Ts4. (抗精子抗体 Ts4 エピトープの糖鎖構造)

- SSR 46th Annual Meeting (2013.6) (Montriel, Canada)
- 川崎ナナ
 バイオ医薬品の品質管理—クオリティ・バイ・デザインと質量分析
 第40回BMSコンファレンス
 宮崎市, 2013.7
- (生薬部)
- 内山奈穂子, 松田諭, 花尻(木倉)瑠理, 合田幸広
2012年度に実施した違法ドラッグ製品の流通実態調査結果について
 日本法中毒学会第32年会(2013.7)千葉県千葉市
- 花尻(木倉)瑠理, 内山奈穂子, 合田幸広
新規流通違法ドラッグの *in vitro* 活性評価について
 日本法中毒学会第32年会(2013.7)千葉県千葉市
- (遺伝子細胞医薬部)
- Suzuki, T, Suresh, T., Oshizawa, T., Maekawa, K., Saito, Y., and Sato, Y.
Basic factors that influence the rat urinary proteome (ラット尿プロテオーム解析における基本要件に関する研究)
 The 13th International Conference on Toxicology (2013.7) (Seoul, Korea)
- (医療機器部)
- M. Uematsu, K. Asato¹, T. Ichihashi¹, M. Umezu¹, R. Nakaoka, A. Matsuoka, S. Aomi², H. Iimura², T. Suzuki², Y. Muragaki², and H. Iseki²
¹Waseda University, ²Tokyo Women's Medical University
A Surgical Navigation System for Aortic Vascular Surgery: A Practical Approach (大動脈手術のためのナビゲーションシステム：実践的なアプローチ)
 The 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (2013.7) (Osaka, Osaka)
- (生活衛生化学部)
- 小林憲弘
水質汚染事故時の対応について—分析法の観点から—
 第22回環境化学討論会(2013.7)(東京都府中市)
- 小林憲弘, 久保田領志, 浅見真理*, 五十嵐良明
 *国立保健医療科学院
水道水中のホルムアルデヒド簡易・迅速分析法の妥当性評価
 第22回環境化学討論会(2013.7)(東京都府中市)
- 小林憲弘, 久保田領志, 塚本多矩*, 五十嵐良明
 *島津製作所
水道水中のホルムアルデヒド前駆物質のLC/MS/MS一斉分析法の開発
 第22回環境化学討論会(2013.7)(東京都府中市)
- 久保田領志, 小林憲弘, 田原麻衣子, 杉本直樹, 五十嵐良明
固相抽出—LC/MSによる水道水中フェノール及びクロロフェノール類の分析法の検討
 第22回環境化学討論会(2013.7)(東京都府中市)
- 河上強志, 伊佐間和郎, 五十嵐良明
PVA製冷感タオル類中のイソチアゾリノン系防腐剤

の実態

第 22 回環境化学討論会 (2013.7) (東京都府中市)

- 河上強志, 伊佐間和郎, 岩田直樹*, 高菅卓三*, 五十嵐良明

*株式会社島津テクノロジー

家庭用品に含まれる有機顔料由来 PCBs の実態調査

第 22 回環境化学討論会 (2013.7) (東京都府中市)

- Jino, H., Ohkawara, S.*¹, Okamoto, Y., Mayumi, K., Tahara, M., Ikarashi, Y., Tanaka-Kagawa, T.

*¹Kyushu University of Health and Welfare

Isothiazolinone Preservatives Activate the Sensory Ion Channels Human TRPA1 and TRPV1 (イソチアゾリン系抗菌剤は感覚受容器ヒト TRPA1 及び TRPV1 を活性化する)

The XIII International Congress of Toxicology (2013.7) (Seoul, Korea)

- Tanaka-Kagawa, T., Okamoto, Y., Mayumi, K., Tahara, M., Ikarashi, Y., Jino, H.

Variation in mRNA Levels of TRPA1 and TRPV1 in Human Airway Tissues (ヒト気道組織 TRPA1 及び TRPV1 mRNA レベルの個体差)

The XIII International Congress of Toxicology (2013.7) (Seoul, Korea)

- Isama, K., Kawakami, T., Miyajima, A., Matsuoka, A.

Effect of SiO₂ and TiO₂ nanoparticles on the cytotoxicity of metal chlorides. (金属塩の細胞毒性に及ぼす SiO₂ および TiO₂ ナノ粒子の影響)

7th International Conference on Materials for Advanced Technology, (2013.7) (Suntec City, Singapore)

(食品部)

- 堤 智昭¹, 天倉吉章², 中村昌文³, 半田洋士³, 松田りえ子¹, 手島玲子¹

¹国立医薬品食品衛生研究所, ²松山大学薬学部, ³日吉高感度 CALUX アッセイによる市販魚中ダイオキシン類のスクリーニング法の開発

第 22 回環境化学討論会, 2013.7.31, 東京都府中市

- 鍋師裕美, 堤 智昭, 蜂須賀暁子, 中村里香, 松田りえ子, 手島玲子

市販流通食品中の放射性セシウム検査～平成 24 年度流通食品検査のまとめ～

第 22 回環境化学討論会, 2013.7.31, 東京都府中市

(食品衛生管理部)

- 與儀健太郎*¹, 佐久川さつき*², 大城直雅, 村田 龍, 池原 強*³, 安元 健*⁴

*¹琉球大学医学部保健学科, *²沖縄県衛生環境研究所, *³長崎大学大学院医歯薬学総合研究科, *⁴日本食品分析センター

魚類食中毒シガテラの原因物質シガトキシン類の LC-MS/MS 分析

第 35 回日本中毒学会総会・学術集会, 平成 25 年 7 月, 大阪府大阪市

(衛生微生物部)

- 小林直樹, 前田詠里子*¹, 河野智美*², 齊藤志保子*³, 古川一郎*⁴, 青木佳代*², 江藤良樹*¹, 堀川和美*¹, 小

西良子, 工藤由起子

*¹福岡県保健環境研究所,*²滋賀県衛生科学センター,*³秋田県健康環境センター,*⁴神奈川県衛生研究所
腸管出血性大腸菌の高病原性の指標となる病原因子についての解析

第17回腸管出血性大腸菌感染症研究会(2013.7)(茨城県・つくば市)

- 李 謙一*¹, N. P. French*², 工藤由起子, 伊豫田淳*³, 小林秀樹*⁴, 小西良子, 局 博一*¹, 熊谷 進*¹
*¹東京大学大学院,*²Massey University,*³国立感染症研究所,*⁴動物衛生研究所

多変量解析によるヒトまたはウシ由来志賀毒素産生性大腸菌 O157 の遺伝的差異の究明

第17回腸管出血性大腸菌感染症研究会(2013.7)(茨城県・つくば市)

- 熊谷浩一*, 田中尚人*, 渡辺麻衣子, 梶川揚申*, 佐藤英一*, 小西良子, 岡田早苗*
* 東京農業大学

せんだんごに生息する食物繊維分解微生物

日本微生物資源学会第20回大会(2013.6)(茨城県つくば)

- 押方 智也子*¹, 釣木澤 尚実*¹, 齋藤 明美*¹, 渡辺 麻衣子, 鎌田 洋一*², 齋藤 博士*¹, 粒来 崇博*¹, 前田 裕二*¹, 安枝 浩*¹, 秋山 一男*¹
*¹国立病院機構 相模原病院,*²岩手大学

環境改善が治療として奏効した *Penicillium* 属によるアレルギー性気管支肺真菌症の一例

第44回日本職業・環境アレルギー学会総会学術大会(2013.7)(神奈川県相模原)

(有機化学部)

- 小野京*¹, 島袋充史*¹, 大庭誠*¹, 土井光暢*², 栗原正明, 出水庸介, 田中正一*¹
*¹長崎大院医歯薬,*²大阪薬大

光学活性環状メチオニンよりなるペプチドの合成とその二次構造解析

第50回化学関連支部合同九州大会(2013.7)(福岡県北九州市)

- 古場百合恵*¹, 平田陽子*¹, 大庭誠*¹, 土井光暢*², 栗原正明, 出水庸介, 田中正一*¹
*¹長崎大院医歯薬,*²大阪薬大

アセタールを有する光学活性5員環アミノ酸の合成とそのペプチドの二次構造解析

第50回化学関連支部合同九州大会(2013.7)(福岡県北九州市)

(安全情報部)

- Toda, M., Uneyama, C., Kasuga, F.

Trends of food poisonings caused by poisonous plants in Japan, 1989-2010(わが国における有毒植物による食中毒の傾向: 1989~2010年)

第13回国際トキシコロジー学会(2013.7)(韓国, ソウル)

- Morita, T., Kojima, H., Hayashi, M.*¹

*¹Public Interest incorporated Foundation, Biosafety Research Center, Japan

General Principles of Chemical Selection for *in vivo* Validation Studies (*In vivo* バリデーション研究のための試験物質選択の一般原則)

第13回国際トキシコロジー学会 (2013.7) (韓国, ソウル)

○ Morita, T.

Information Gathering and Evaluation of Data Quality for Safety Assessment of Chemicals (化学物質安全性評価のための情報収集とデータの質の評価)

第3回中国薬物毒理学会 (2013.7) (中国, 蘇州)

○ Morita, T.

Importance of Information Gathering and Evaluation of Data Quality (情報収集とデータの質の評価の重要性) *

(南京 GLP センター) (2013.7)

○ Morita, T.

Importance of Information Gathering and Evaluation of Data Quality (情報収集とデータの質の評価の重要性) *

(上海医薬工業研究院) (2013.7)

(医薬安全科学部)

○ Maekawa, K., Iwata, Y.^{*1}, Tajima Y., Nishimaki-Mogami, T., Ueno, N., Ishikawa M., Murayama, M., Nakanishi, H.^{*2}, Ikeda K.^{*3}, Arita, M.^{*4}, Taguchi, R.^{*5}, Minamino, N.^{*2}, Wakabayashi S.^{*2}, Saito Y.
*1 国立循環器病センター, *2 秋田大, *3 慶応大, *4 東京大, *5 中部大,

Lipidomic analysis of heart tissues from a hamster model for dilated cardiomyopathy (拡張型心筋症モデルハムスターの心筋における脂肪メタボローム解析)

The 9th Annual Conference of the Metabolomics Society (2013.7) (Glasgow, UK)

○ Tajima, Y., Maekawa, K., Ishikawa, M., Murayama, M., Senoo, Y., Nishimaki-Mogami, T., Nakanishi, H.^{*1}, Ikeda, K.^{*2}, Arita, M.^{*3}, Taguchi, R.^{*4}, Okuno, A.^{*5}, Mikawa, R.^{*5}, Niida, S.^{*5}, Takikawa, O.^{*5}, Saito Y.

*1 秋田大, *2 慶応大, *3 東京大, *4 中部大, *5 国立長寿医療研究センター

Lipidomic analysis of brain tissues and plasma in a mouse model expressing mutated human amyloid precursor protein/tau for Alzheimer's disease (アルツハイマー病モデルマウスの脳及び血漿における脂肪メタボローム解析)

The 9th Annual Conference of the Metabolomics Society (2013.7) (Glasgow, UK)

○ Ishikawa, M., Maekawa K., Senoo Y., Tajima Y., Saito K., Urata M., Murayama M., Wakisaka M.^{*}, Kumagai Y.^{*}, Saito Y

*北里大

Fundamental properties of human blood as samples for appropriate lipid biomarker exploration (脂質バイオマーカー探索のためのヒト血液サンプルの基本的特性)

The 9th Annual Conference of the Metabolomics Society

(2013.7) (Glasgow, UK)

(毒性部)

- 菅野 純
ナノマテリアル安全性評価の進捗—発がん性に関わる知見を中心に—
第20回がん予防学会, 2013年7月5日, 東京
- Jun Kanno
Percellome Toxicogenomics, A Quantitative and Comprehensive Approach for Basic and Applied Toxicology. (パーセローム トキシコゲノミクス, 基礎及び応用毒性学のための定量的, 網羅的アプローチ)
ICT2013 The XIII International Congress of Toxicology, (第13回国際毒性学会) 2013年7月2日, 韓国・ソウル
- Kitajima, S., Aisak K., Igarashi, K., Kanno, J.
Application of Percellome Toxicogenomics approach to food safety: A flavor, estragole appears to be a PPAR-alpha agonist. (食品の安全性確認に向けた Percellome トキシコゲノミクスの適用—香料エストラゴールは PPAR α 活性化剤である—)
The XIII International Congress of Toxicology 2013 (2013.7) (Seoul, Korea)
- Taquahashi, Y., Ogawa, Y., Takagi, A., Tsuji, M., Hirose, A., Kanno, J.
Highly-Dispersed, Aggregate/Agglomerate-Eliminated Multi-Wall Carbon Nanotube Shows Increase In Mesotheliomagenic Potency Per Unit Weight In P53 Heterozygous Mice Intraperitoneal Injection Model. (凝集体を除去し分散性を高めた多層カーボンナノチューブは p53 \pm -マウス腹腔内投与モデルにおいて単位重量当りの中皮腫誘発能が増加する)
The XIII International Congress of Toxicology (2013.7, Seoul, Korea)
- Igarashi, K., Tanemura, K.1), Furukawa, Y., Otsuka, M., Moriyama, N., Aisaki, K., Kitajima, S. and Kanno, J.
1) 東北大学
Analysis of late-onset effects on CNS induced by transient GABA signal activation with hypnotics during brain development. (睡眠導入剤による脳発達期における一過性 GABA シグナル活性化により誘発される中枢神経系遅発影響の解析)
The XIII International Congress of Toxicology (2013.7, Seoul, Korea)
- Lee, B. W.*1, Jeon, B. S.*1, Hirabayashi, Y., Inoue, T.*2, Yodoi, J.*3, Kim, D. Y.*4, Yoon. B.I.*1.
*1 Kangwon National Univ., *2 Nihon Univ., *3 Univ. of Kyoto, *4 Seoul National Univ.
Dynamic expression of thioredoxin and its encouraging effect on cell proliferation during liver regeneration.
The XIII International Congress of Toxicology (ICT2013). (2013.7.1) (Seoul, Korea)
- Hirabayashi, Y., Yoon, B. I.*1, Tsuboi, I.*2, Kanno, J., Trosko, J. E.*3, Inoue, T.*2
*1 Kangwon National Univ., *2 Nihon Univ., *3 State

Univ., of Michigan

Role of Connexin 32 In Hematopoiesis: Maintaining Mechanism of Quiescent Hematopoietic Stem Cells and Their Simultaneous Steady-State Proliferation.

The XIII International Congress of Toxicology (ICT2013).
(2013.7.3) (Seoul, Korea)

(薬理部)

- 関野祐子
ヒト iPS 由来分化細胞の非臨床試験法への応用：試験法の標準化の重要性について
日本製薬医学会 2013 年度年次大会 (2013.7) (東京)
- 山田茂, 古武弥一郎*, 関野祐子, 諫田泰成
*広島大学
ヒト胎児性癌細胞のエネルギー産生に対する有機スズ化合物の影響
第 128 回日本薬理学会関東部会 (2013.7) (東京)

(病理部)

- 梅村隆志
遺伝毒性発がん物質のリスク評価：新しいアプローチ
第 40 回日本毒性学会学術年会 (2013.6) (千葉県千葉市)
- 松下幸平, 石井雄二, 高須伸二, 黒田 顕, 木島綾希, 能美健彦, 小川久美子, 梅村隆志
レポーター遺伝子導入ラットを用いた短期腎発がん物質検出モデルの開発
第 40 回日本毒性学会学術年会 (2013.6) (千葉県千葉市)
- 日比大介, 木島綾希, 鈴木裕太, 金 美蘭, 石井雄二, 小川久美子, 梅村隆志
gpt delta ラットを用いた遺伝毒性および肝発がん性の包括的評価によるフラン誘発肝発がん機序の検索
第 40 回日本毒性学会学術年会 (2013.6) (千葉県千葉市)
- 川嶋 潤*, 中村知裕*, 菅田恵理世*, 鈴木紗綾*, 小川祐布子*, 吉田 緑, 代田真理子*
*麻布大学獣医学部比較毒性学研究室
新生ラットへのエチニルエストラジオール曝露が幼若期の卵巣における卵胞発育関連遺伝子の発現に及ぼす影響
第 40 回日本毒性学会学術年会 (2013.6) (千葉県千葉市)
- 高須伸二, 石井雄二, 松下幸平, 黒田 顕, 西川秋佳, 小川久美子, 梅村隆志
DEN および furan 誘発 GST-P 陽性細胞巣への sulforaphane の修飾効果
第 20 回日本がん予防学会 (2013.7) (東京)
- 豊田武士, 曹 永晩, 赤木純一, 水田保子, 大波冴子, 鈴木 勇, 西川秋佳, 小川久美子
ヘリコバクター・ピロリ感染スナネズミの除菌後胃癌に対するアスピリンの化学予防効果の検討
第 20 回日本がん予防学会 (2013.7) (東京)
- 高橋美和, 松尾沙織里, 井上 薫, 田村 圭, 入江かをる, 児玉幸夫, 吉田 緑
N-ethyl-N-nitrosourea を用いた *Ptch1* ヘテロマウスに

見られる自然発生髄芽腫の短期誘発モデル
第20回日本がん予防学会(2013.7)(東京)

- Ogawa, K., Onami, S., Cho, Y.-M., Toyoda, T., Akagi, J.-I., Suzuki, I., Mizuta, Y., Nishikawa, A.

No significant adverse effect of nanoclay primarily consisting of Montmorillonite in a rat 13-week dietary administration study (モンモリロナイトを主成分とするナノクレイはラット13週間混餌投与試験において毒性影響を示さない)

ICT 2013 (2013. 7) (Seoul, Korea)

(変異遺伝部)

- 本間正充

医薬品開発における遺伝毒性の予測とリスク評価

CBI学会講演会「e-ADMET構築に向けて4:毒性予測の現状と今後の展開」2013年7月10日 東京

- 本間正充

Risk assessment and management of genotoxic impurities in pharmaceuticals (医薬品中の遺伝毒性不純物のリスク評価と管理)

第3回中国薬物毒理学会医薬品非臨床安全性評価研究フォーラム 2013年7月16日-19日 中国・蘇州

(総合評価室)

- A. Ono, M. Takahashi, K. Yabe, H. Kato, T. Kawamura, M. Matsumoto, M. Hirata-Koizumi and A. Hirose

The Japanese Existing Chemical Safety Survey

Program : Reproductive Toxicity of 3-Cyanopyridine In Rats. (既存化学物質安全性点検:3-シアノピリジンのラットを用いた生殖毒性試験)

XIII International Congress of Toxicology

COEX (韓国ソウル市)、2013.7

5. レギュラトリーサイエンス関連国際会議報告

(毒性部)

- 菅野 純

第7回化粧品規制協力国際会議 (ICCR)

東京, 2013年7月9日

化粧品規制協力国際会議はカナダ, 欧州連合, 日本及び米国の化粧品規制当局からなる国際的グループであり, 国際貿易への障壁を最小化しつつ最高レベルの世界的な消費者保護を維持することを目的とする. 会合の一部としての Dialogue Meeting において, 内分泌攪乱物質について講演を行った.

(薬理部)

- 小島 肇

International Cooperation on Alternative Test Methods (ICATM) Coordination Meeting (動物実験代替法国際協調の調整会議)

ソウル, 韓国, 2013年7月3日

日本, 米国, EU, 韓国のそれぞれの動物実験代替法バリデーションセンターより昨今の動向が報告され, 協調して対処すべき試験法について確認し合った.

6.新聞・テレビ等

報告なし